

(7) 中学校保健体育部会

会 長 前田 美由紀 (中村中)
副会長 中山 弘智 (県立中村中)
事務局 矢野 志音 (西土佐中)

1. 研究主題 「児童・生徒の発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びの保健体育の授業」 ～効果的な ICT の活用を通して～

2. 研究経過

実施年月日	研 究 の あ ら ま し	会場	備考
令和6年 5月7日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	8名参加
令和6年 6月14日(金)	幡多地区中学校体育連盟研修部会 内容：研究授業、研究協議 持参物：指導案 学習指導要領解説(保健体育) バインダー 室内シューズ 指導と評価の一体化のための学習評価に 関する参考資料(保健体育) 報告者 矢野 志音(西土佐中)	片島中学校	8名参加

3. 今年度の取組

各学校で ICT を活用した授業実践を行うことができた。ICT の活用が技能の向上や思考力・判断力。表現力の向上につながっていると考える教員、生徒が多かった。その一方で昨年度から引き続き、体育を楽しんでいる生徒より、ICT の活用が好きと感じている生徒が少ないことは課題である。運動量の確保などの課題はあるものの、より生徒が ICT 活用の効果を実感し、主体的に取り組めるような活用方法を考えていきたい。

今年度はベースボール型での ICT 活用や ICT 活用場面を入れた単元構想の作成を中心に研究を行った。児童・生徒の発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びの保健体育授業の実践を目指して、これからも研究を進めていきたい。



4. 今年度の成果（○）と課題（▲）

- 直接話し合いをする時よりも、多面的・多角的な意見の交流ができた時があった。
- 振り返りもスライド内で行い、授業の最後に提出させることで、クラスルームを用いて容易にチェックすることができた。
- 実技テストの動画をタブレットで送信させることにより、生徒はより良い演技や試行を送ることができ、教員も丁寧に確認し、評価することができる。
- ▲今後活用してみたい機能として、遅延カメラやスロー再生、コマ送り写真や作戦ボードを挙げる教員がいた。このような機能を手軽に使えるような環境整備が必要である。
- ▲ICT を使うことが授業の目的にならないように意識していく必要がある。いかに生徒が ICT の有用性を実感しながら、進んで活用できるような場面設定が必要。自然に主体的に ICT を生徒が活用するには、まだまだ実践の工夫が必要である。
- ▲クラウドを活用した「途中参照」「他者参照」を生徒が好きなタイミングで自己やチームの課題に応じてできるように、単元計画や授業展開の工夫をしていく必要がある。